

新日比谷プロジェクト(三井不動産) 芸術文化の発信拠点に

2016年12月8日
朝日新聞、他



【新日比谷プロジェクト】の主な特徴

1. 国際的な芸術文化発信、ビジネス連携等の拠点(国家戦略特別区域)

平成26年12月19日に開催された第10回国家戦略特別区域諮問会議にて、本プロジェクトは東京圏として初となる国家戦略特別区域として内閣府より計画認定されました。

2. 当地の歴史や立地特性を活かした「ホプキンスアーキテクツ」によるマスターデザイン

日比谷公園との緑の連続性や眺望を活かしたランドスケープや施設計画といたしました。外装は、高層部においては明治期の「鹿鳴館」を始め国際交流や西洋文化の先駆けとしての歴史を踏まえたデザインコンセプト「DANCING TOWER」とし、低層部は三信ビルディングをモチーフにしたデザインとしており、品格あるエレガントな外装デザインを実現しました。

東宝グループと連携した賑わいづくり

「合歓の広場」に1995年からたつゴジラの銅像。
外国人観光客らに人気



計画建物6階
「(仮称)日比谷テラス」イメージパース



計画建物1階外構
「(仮称)日比谷ゲートプラザ」イメージパース
(千代田区有地と一体的に整備する約3,600m²の広場空間)

「芸術文化の発信拠点に」

映画・演劇の街を生かし「国際的な芸術文化発信拠点」を創出——。国家戦略特区の認定を受けた三井不動産の「新日比谷プロジェクト」では、屋内外に整備されるイベント空間が果たす役割への期待が大きい。

オフィスや商業施設が集積する再開発ビル(地上35階地下4階)内には、2、3階からも

1階が見渡せる3層吹き抜け構造のイベント空間「プロモーションアトリウム」(約800平方㍍)を設ける。映像や音響を駆使した多彩なイベントが開けるといふ。

ビル北側の屋外には、広場空間「日比谷ゲートプラザ」(仮称)を整備。日比谷通り側に向かってビル2階に通じる高さ約7㍍の階段をつくり、この階段は広場で開催される屋外イベントを眺める「観客席」にも使える設計だ。

区道を挟んだ東側には、東宝の大スター「ゴジラ」の銅像(高さ約1㍍)が立ち、国内外の映画スターたちのサインと手形のプレートが敷設された「合歓の広場」がある。この現新的広場を合わせると計約4千平方㍍近くに及ぶ。

再開発ビルと東京宝塚劇場の東側の区道は、千代田区が車両の進入規制を検討中。歩行者専用道のように使えば、スターとファンの交流イベントなどが快適に開けるエリアになる。